

## IV-4 独身及び子どものいない世帯の調査結果

### 1. 調査の概要

#### (1) 調査の目的

区内に居住する独身世帯、子どもがいない世帯の一般区民に対してアンケートを行うことにより、生活実態、結婚や子育て等に関する意見などを把握し、平成21年度「練馬区次世代育成支援対策行動計画（後期）」を策定するうえでの基礎資料とする。

#### (2) 調査内容

- ①家族及び生活について
- ②現在の不安、結婚について
- ③結婚や子育てについて
- ④労働・社会保険等による支援の周知状況
- ⑤地域交流について
- ⑥少子社会に対する考え方について
- ⑦行政サービスへの要望について

#### (3) 調査仕様

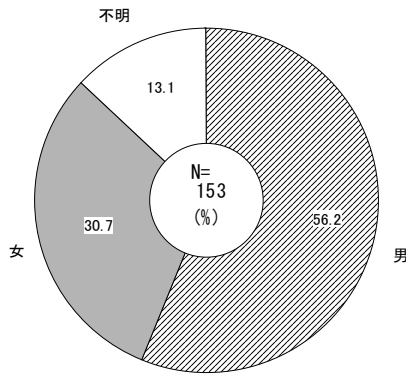
- ①調査地域 区内
- ②調査対象 区内に居住する独身及び子どものいない世帯
- ③標本数 500件（各250件）
- ④抽出方法 住民基本台帳から調査対象の条件をかけた抽出
- ⑤調査方法 郵送配布、郵送回収
- ⑥調査期間 平成21年2月27日～3月13日

#### (4) 回収数・回収率

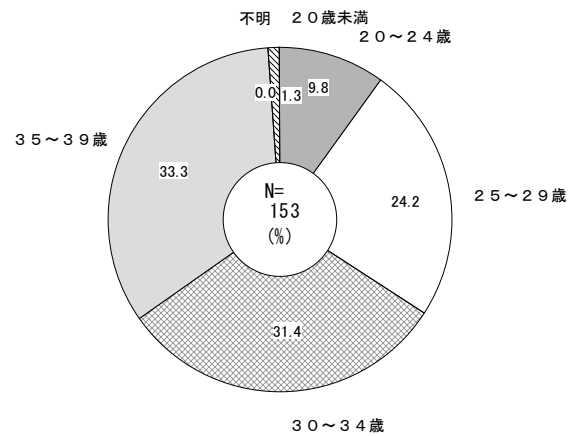
153件 有効回答率=30.6%

## (5) 基本属性

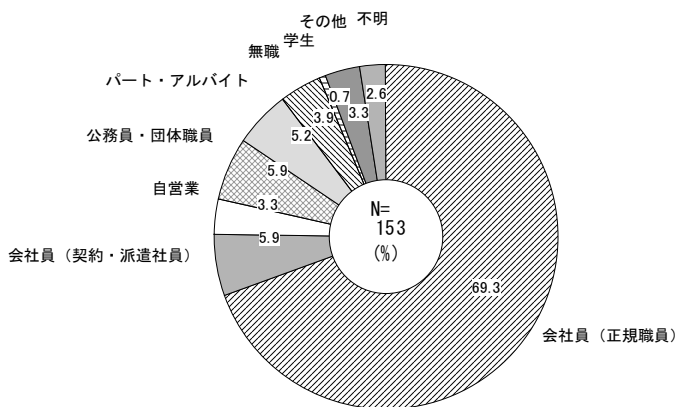
性別



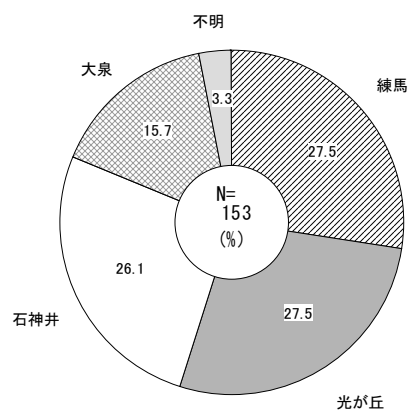
年齢



職業



居住地区



### ◆本報告書における調査結果の見方

- 調査結果の数値は、回答率(%)で表示している。回答率(%)の母数は、その質問項目に該当する回答者の総数であり、その数は全体及びNで示している。
- 回答率(%)については、小数点以下第2位を四捨五入し、少数第1位までを表示している。このため、その合計数値は必ずしも100%とはならない場合がある。
- 回答には、単数回答(○は1つ)と複数回答(○はいくつでも)の2種類がある。複数回答の場合、その回答率(%)の合計は100%を超える場合がある。
- 図表の間のタイトル及び、回答の選択肢は、簡略化して表現している場合がある。正式な間のタイトル及び、回答の選択肢は、調査票を参照されたい。

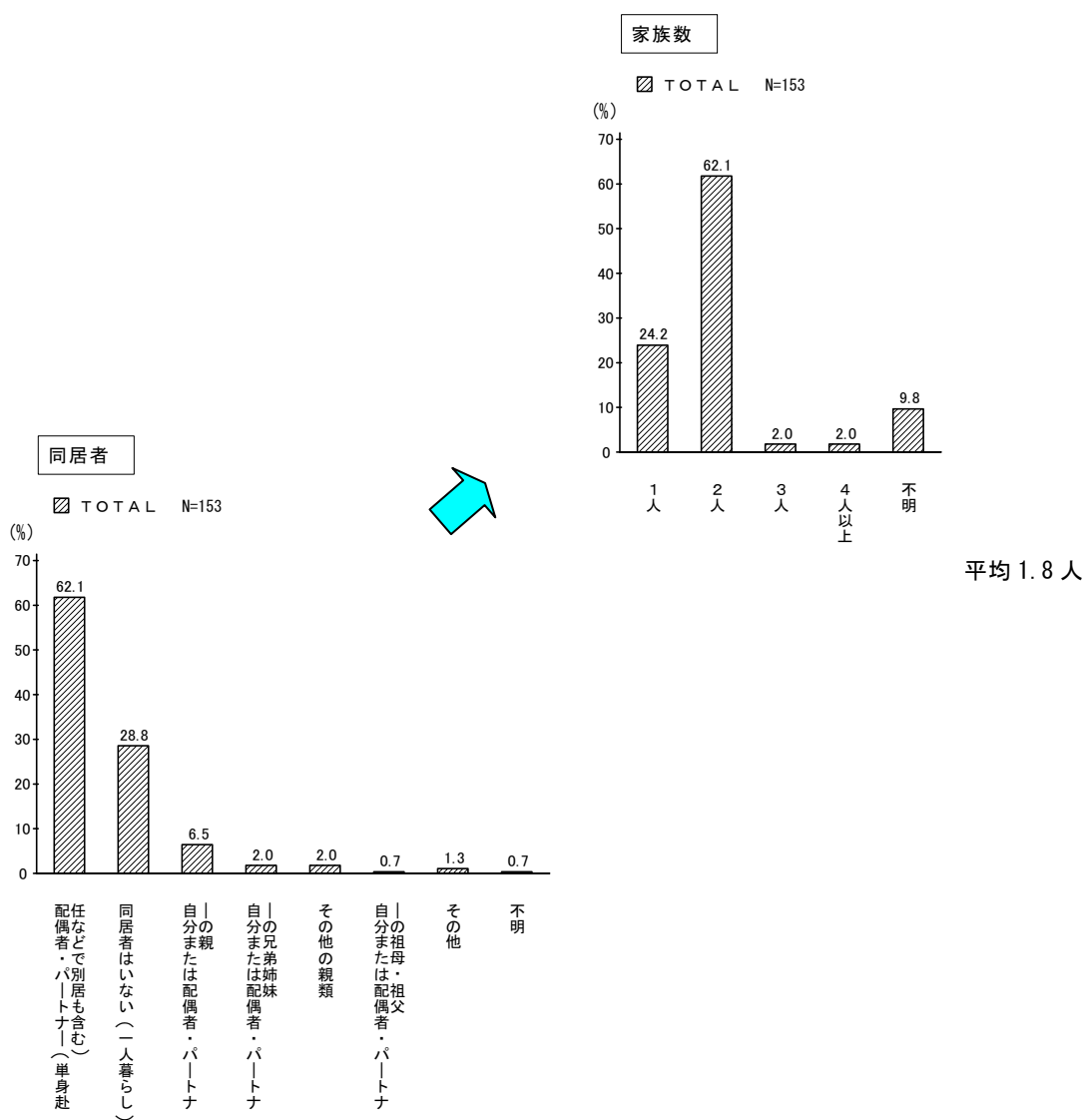
## 2. 調査結果の概要

### (1) 家族及び生活について

**問1** 同居されている方はどなたですか。あなたを中心にお答えください。(複数回答)

家族について聞くにあたり、はじめに同居者について聞いたところ、「配偶者・パートナー（単身赴任などで別居も含む）」が62.1%で最も多く、続いて「同居者はいない（一人暮らし）」が28.8%となっている。

そこで同居している家族の数を聞いたところ平均1.8人であった。

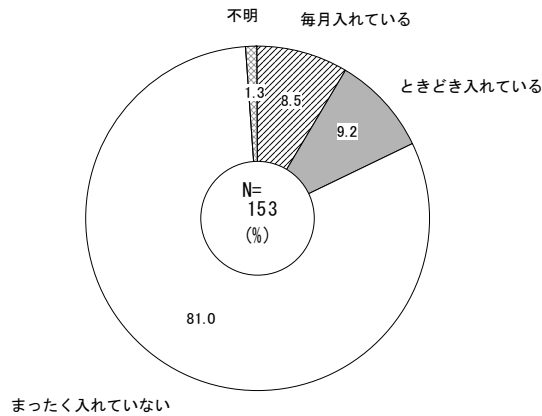


**問2 あなたは、親へ生活費（仕送り）を入れていますか。**

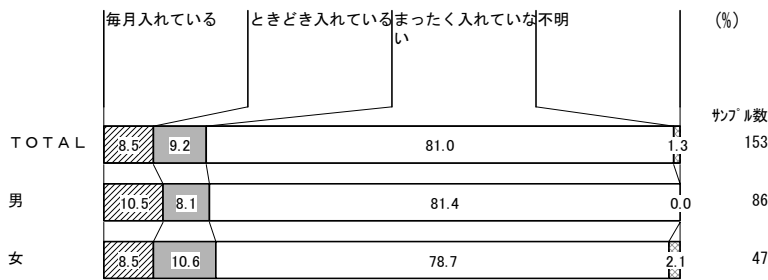
親への生活費（仕送り）について見てみると、「まったく入れていない」が81.0%で最も多くなっている。また「毎月入れている」は8.5%、「ときどき入れている」は9.2%となっている。

性別で見ると、いずれも「まったく入れていない」が多く、性別による大きな差は見られない。

親への生活費（仕送り）



親への生活費（仕送り）（性別）



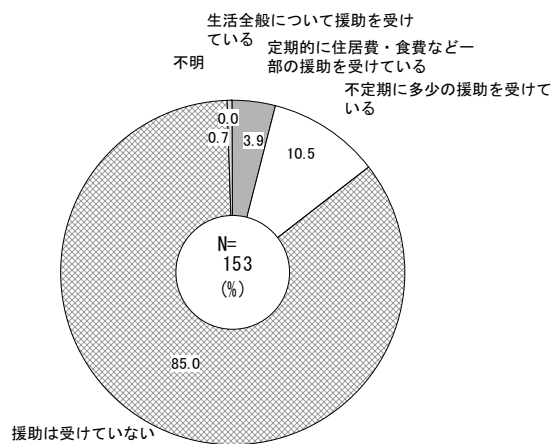
(注) 表側の不明は除く。

**問3 あなたは、親から生活費の援助を受けていますか。**

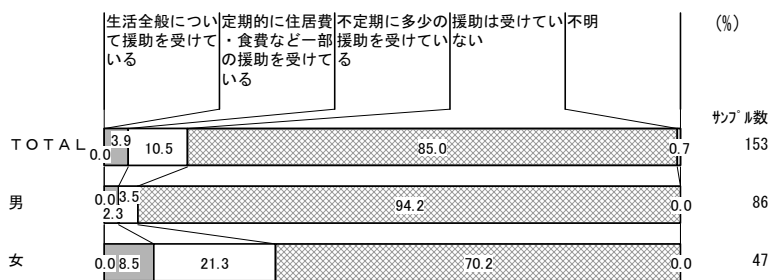
親からの生活費の援助について聞いたところ、「援助は受けていない」が85.0%で最も多く、「不定期に多少の援助を受けている」もやや多くなっている。

性別で見ると、いずれも「援助は受けていない」が最も多く、女性については「不定期に多少の援助を受けている」もやや多くなっている。

**親からの生活費の援助について**



**親からの生活費の援助について（性別）**

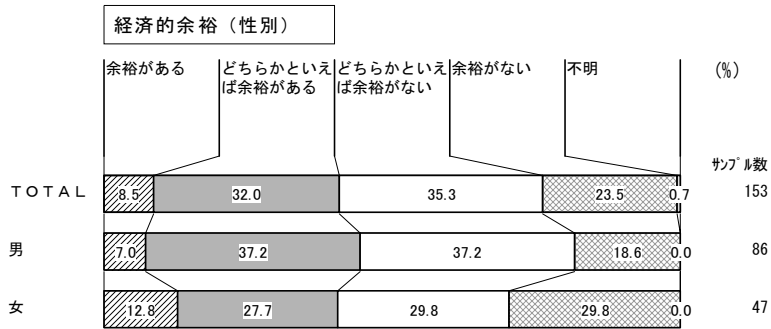
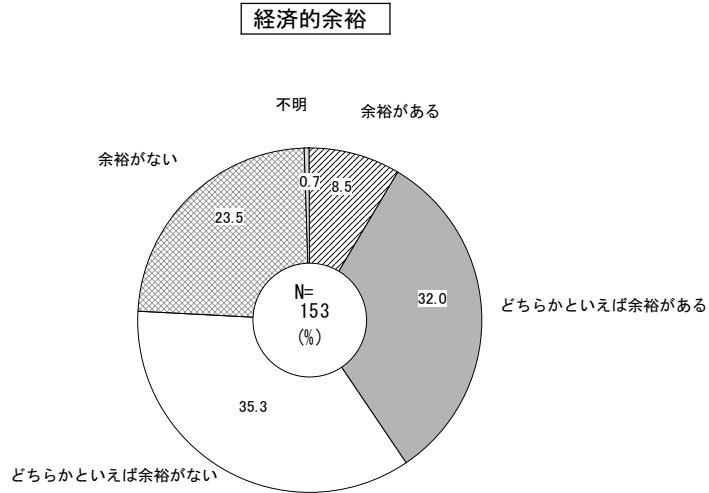


(注) 表側の不明は除く。

**問4** 今のあなたの生活は、経済的に余裕がありますか。

経済的余裕について聞いたところ、「どちらかといえば余裕がない」の割合が最も大きく、「どちらかといえば余裕がある」も3割程度を占めている。

性別で見ると、「余裕がない」については女性の方が多くなっている。



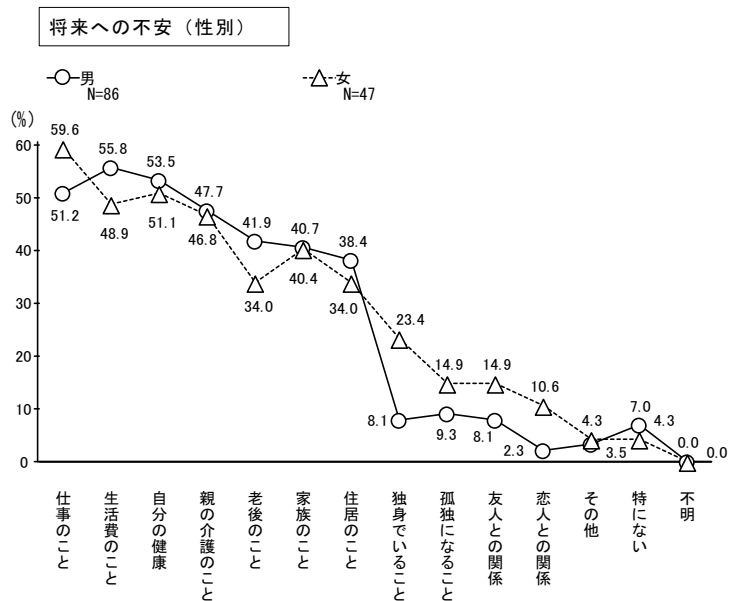
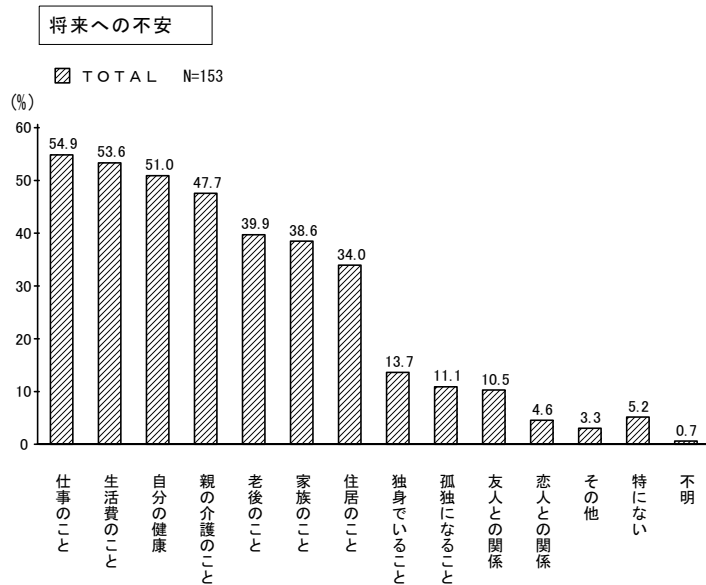
(注) 表側の不明は除く。

## (2) 現在の不安、結婚について

問5 あなたは、将来への不安にはどんなものがありますか。(複数回答)

将来の不安について聞いたところ、「仕事のこと」が54.9%で最も多く、続いて「生活費のこと」が53.6%、「自分の健康」が51.0%となっている。

性別で見ると、全体的に男性の回答が多くなっているが、「独身でいること」については女性が多くなっている。



問6 あなたは結婚していますか。

問6(1)「結婚」については、どのような考えをおもちですか。

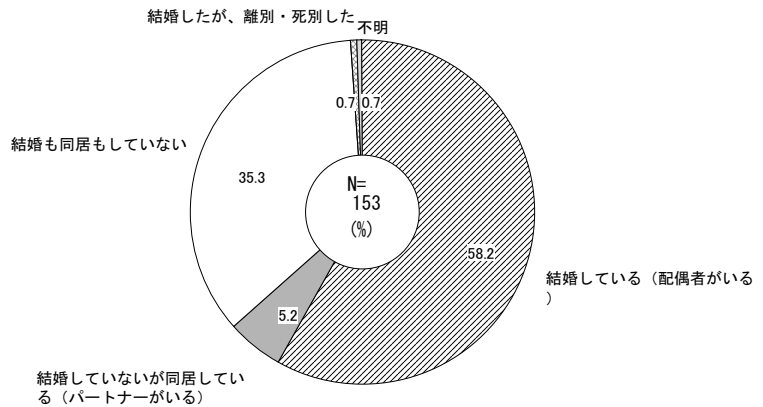
問6(2)結婚していないのはどうしてですか。(3つまで)

結婚の有無について聞いたところ、「結婚している(配偶者がいる)」が58.2%、「結婚も同居もしていない」が35.3%となっている。

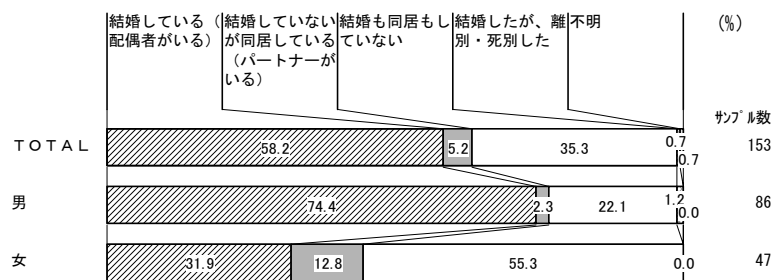
性別で見ると、男性は「結婚している(配偶者がいる)」、女性は「結婚も同居もしていない」が多くなっている。

そこで『結婚も同居もしていない』と回答した人に、結婚に関する考えについて聞いたところ、「いずれは結婚したい」が63.0%となっている。

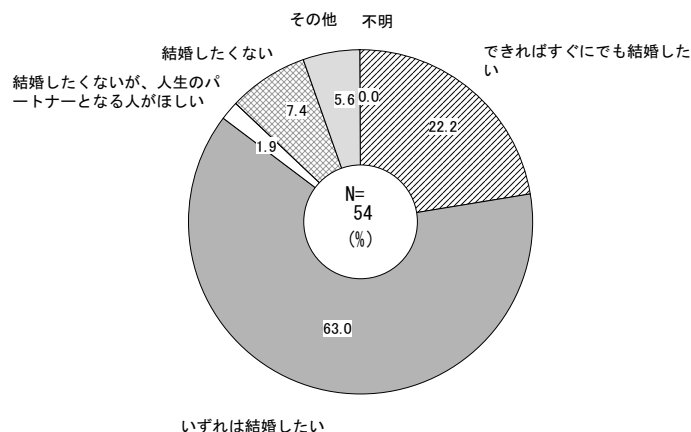
結婚の有無



結婚の有無(性別)



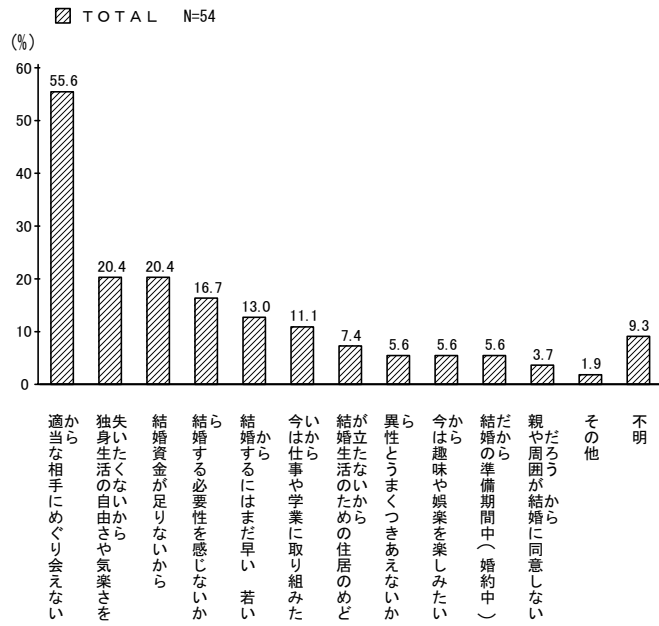
結婚に関する考え





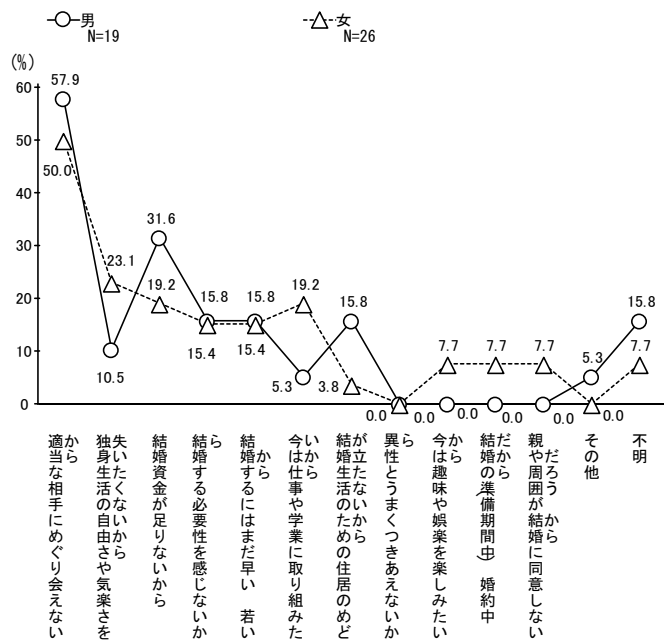
さらに『結婚も同居もしていない』と回答した人に、その理由を聞いたところ、「適当な相手にめぐり会えないから」が55.6%で最も多く、続いて「独身生活の自由さや気軽さを失いたくないから」及び「結婚資金が足りないから」がいずれも20.4%となっている。

結婚も同居もしていない理由



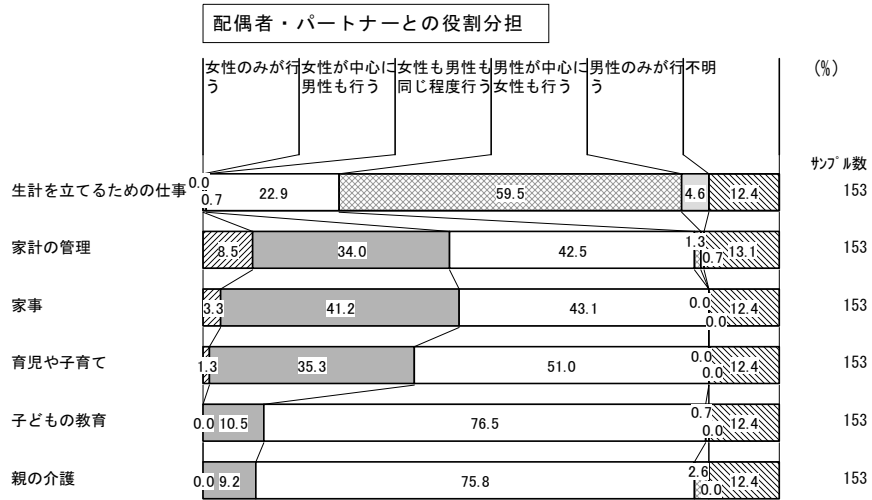
性別で見ると、男女共に「適当な相手にめぐり会えないから」が最も多く、男性では「結婚資金が足りないから」「結婚生活のための住居のめどが立たないから」、女性では「独身生活の自由さや気軽さを失いたくないから」も多くなっている。

結婚も同居もしていない理由（性別）



**問7 あなたは、配偶者・パートナーとはどのような役割分担をする方がよいと思いますか。**

配偶者・パートナーとの役割分担について、生活の様々な視点で聞いたところ、「家計の管理」「家事」「育児や子育て」などについては主に女性、「生計を立てるための仕事」については主に男性、「親の介護」や「子どもの教育」などについては「女性も男性も同じ程度行う」が多くなっている。



### (3) 子育てや結婚について

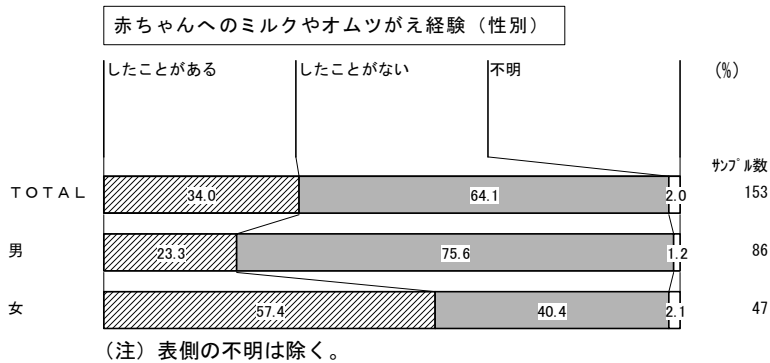
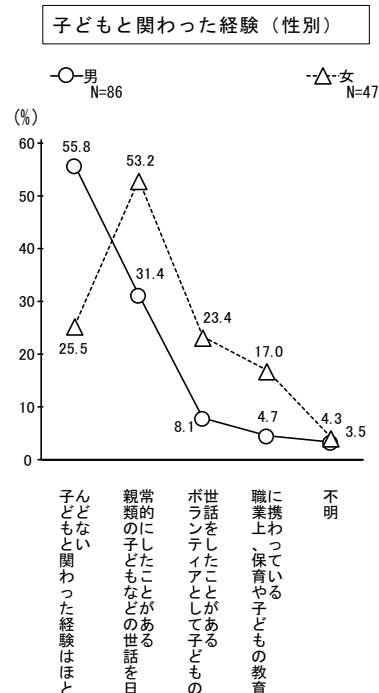
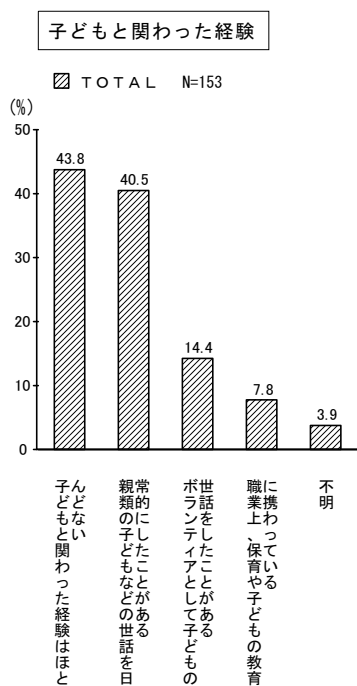
問8 これまでに、子どもに関わったことがありますか。(複数回答)

問9 あなたは赤ちゃんにミルクを飲ませたり、オムツがえなどをしたりしたことがありますか。

子どもに関わった経験について見てみると、「子どもに関わった経験はほとんどない」が43.8%で最も多く、続いて「親類の子どもなどの世話を日常的にしたことがある」が40.5%となっている。

性別で見ると、男性は「子どもに関わった経験はほとんどない」、が多く、「親類の子どもなどの世話を日常的にしたことがある」などについては女性がやや多くなっている。

赤ちゃんへのミルクやオムツがえ経験について聞いたところ、34.0%が経験があると回答しており、性別では「女性」の約6割を占めている。



問10 あなたは、将来子どもを持ちたいと思いますか。

問10(1) 将来子どもを持ちたいと思う理由は何ですか。(複数回答)

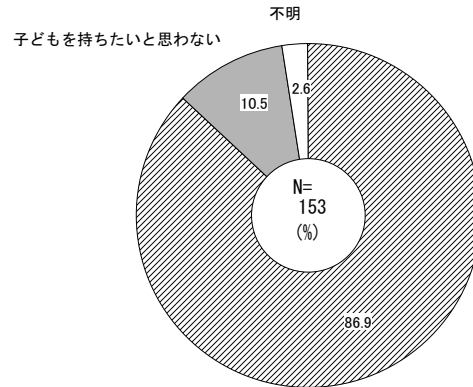
問10(2) 将来子どもを持ちたいと思わない理由は何ですか。(複数回答)

将来子どもを持ちたいかについて聞いたところ、86.9%が持ちたいと回答している。

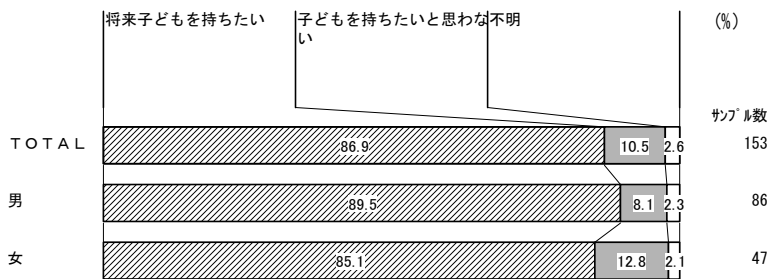
性別で見ると、男性は89.5%が「将来子どもを持ちたい」と回答している。

『子どもを持ちたい』と回答した人にその理由を聞いたところ、「家族の結びつきが強くなるから」が63.2%で最も多く、続いて「子どもを通じて交流が広がるから」が48.9%となっている。

子どもを持ちたいか

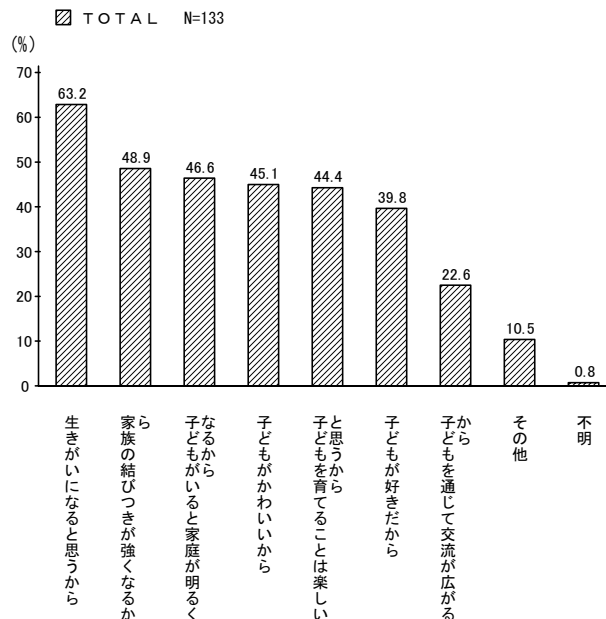


子どもを持ちたいか (性別)

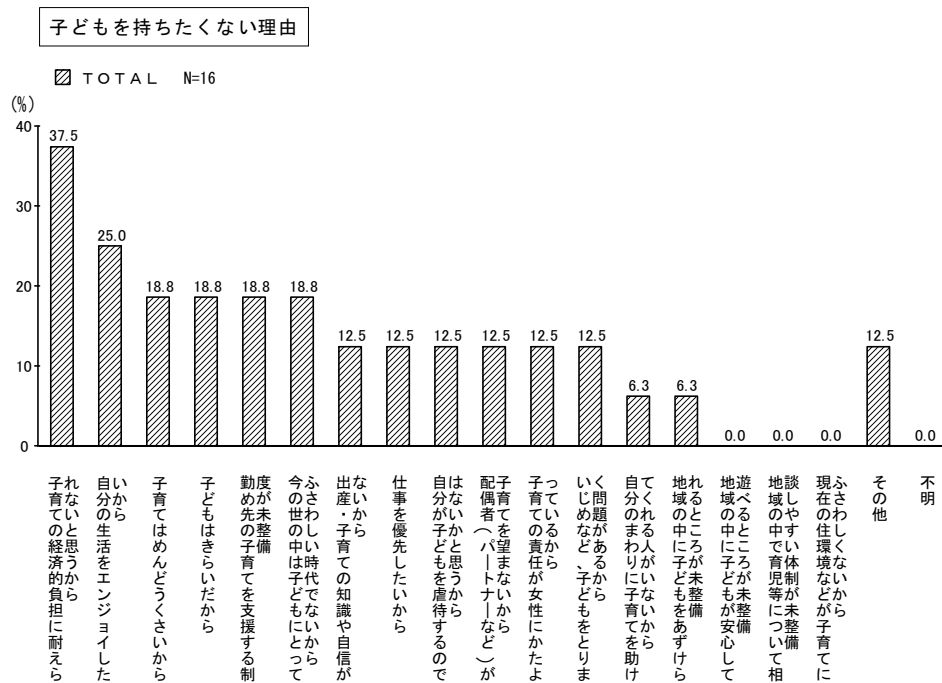


(注) 表側の不明は除く。

子どもを持ちたい理由

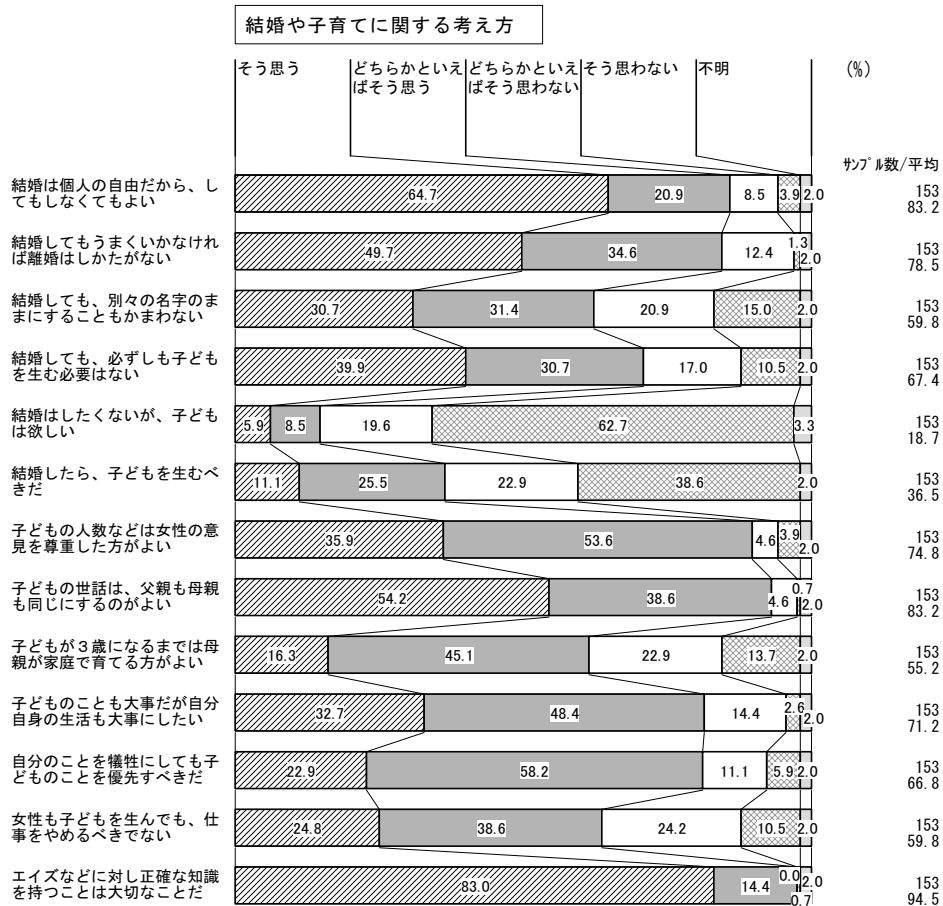


一方『子どもを持ちたいとは思わない』と回答した人にその理由を聞いたところ、「子育ての経済的負担に耐えられないと思うから」が37.5%で最も多く、続いて「自分の生活をエンジョイしたいから」が25.0%となっている。



問 1 1 結婚や子育てに関する次のような考え方についてどう思いますか。

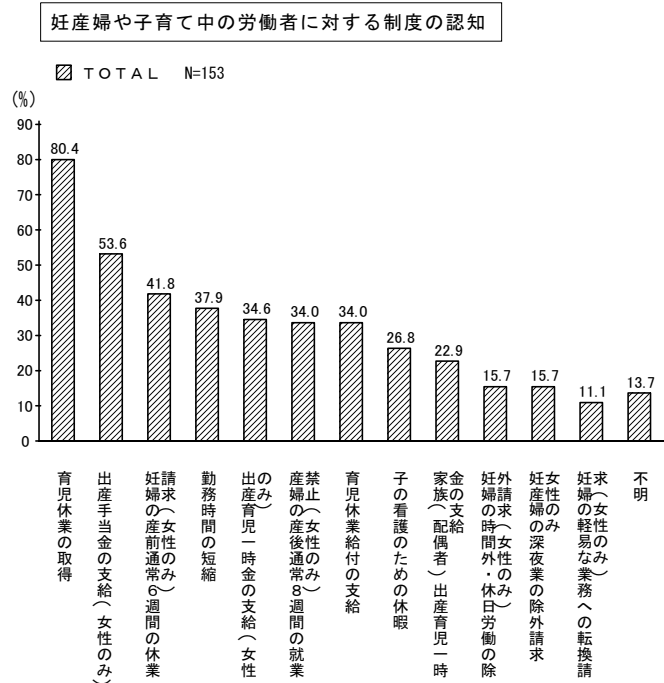
結婚や子ども等についての考え方について、様々な視点から聞いたところ「エイズなどに対し正確な知識を持つことは大切なことだ」「結婚は個人の自由だから、してもしなくてもよい」「子どもの世話は、父親も母親も同じにするのがよい」などの「そう思う」、「結婚はしたくないが、子どもは欲しい」「結婚したら、子どもを生むべきだ」の「そうは思わない」の割合が大きくなっている。



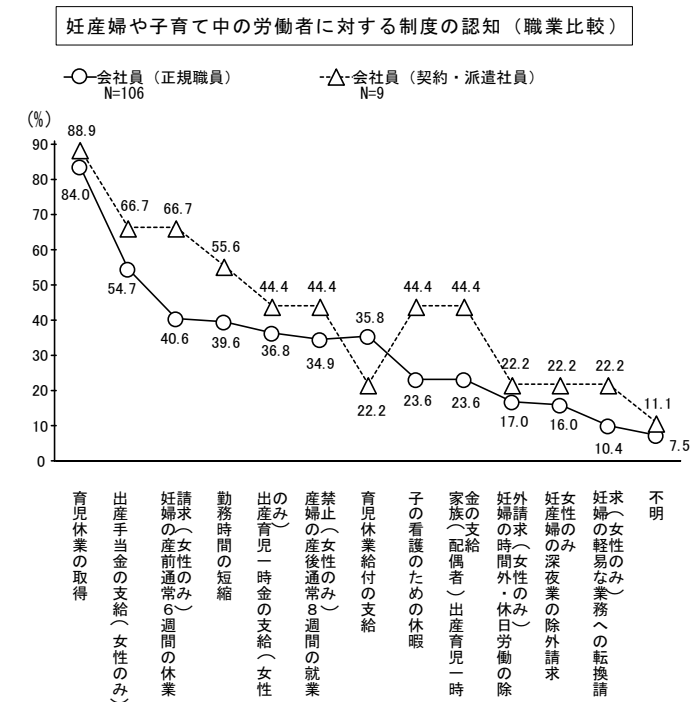
#### (4) 労働・社会保険等による支援の周知状況について

**問12** あなたは、妊産婦や子育て中の労働者に対して、労働・社会保険等による次のような支援があることを知っていますか。(複数回答)

妊産婦や子育て中の労働者に対する制度について知っているものを聞いたところ、「育児休業の取得」が80.4%で最も多く、続いて「出産手当金の支給(女性のみ)」が53.6%となっている。



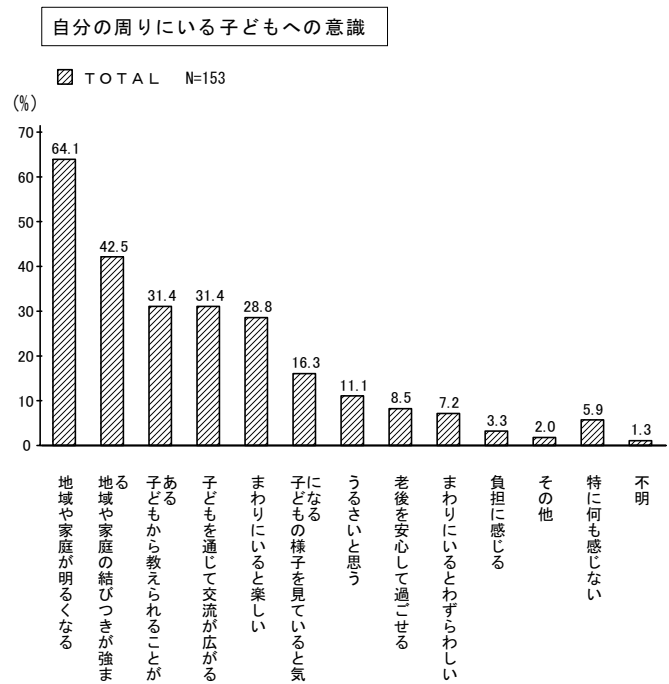
そこで職業による比較を行うと、全体的には「会社員(契約・派遣社員)」の認知度が高い。



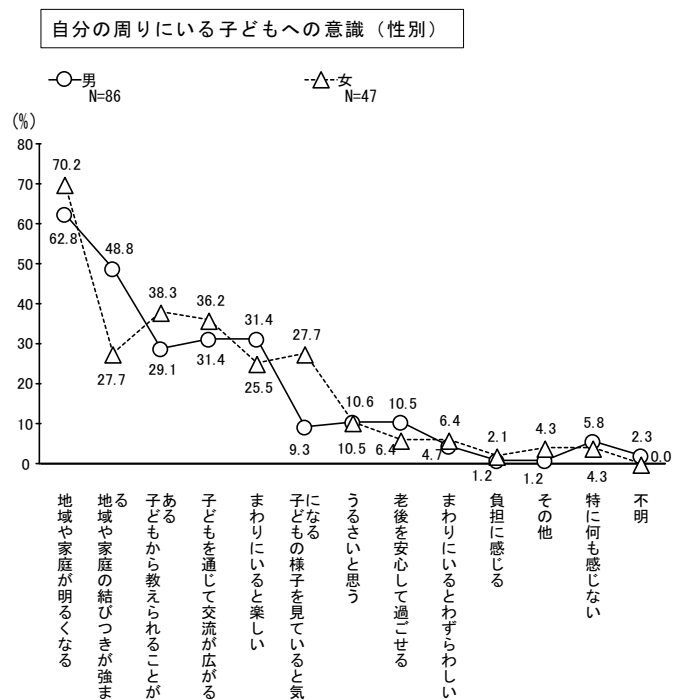
## (5) 地域との交流について

**問13** あなたは、家族や地域社会など、自分の周りに子どもがいることをどう思いますか。(3つまで)

自分の周りにいる子どもへの意識について聞いたところ、「地域や家庭が明るくなる」が64.1%で最も多く、続いて「地域や家庭の結びつきが強まる」が42.5%、「子どもから教えられることがある」が31.4%となっている。



性別で見ると、いずれも「地域や家庭が明るくなる」が最も多く、「地域や家庭の結びつきが強まる」については男性の方がやや多くなっている。

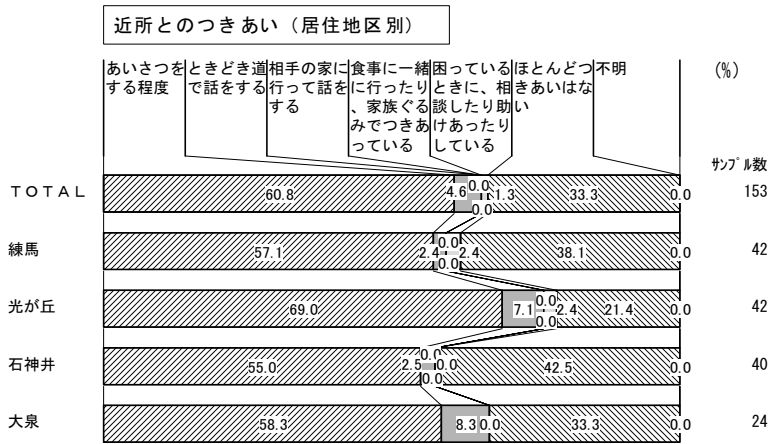
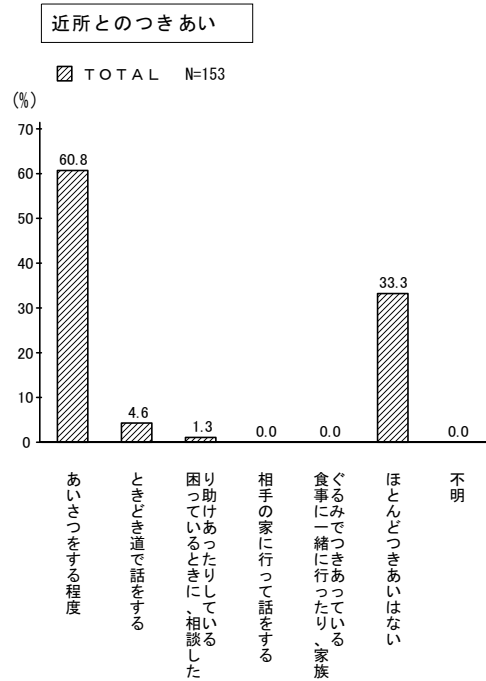




**問14 あなたの近所とのつきあいはどうですか。**

近所との付き合いについて聞いたところ、「あいさつをする程度」が60.8%となっているが、「ほとんどつきあいはない」も33.3%となっている。

居住地区別で見ると、いずれの地区でも「あいさつをする程度」が多く、「石神井」地区では「ほとんどつきあいはない」も多くとなっている。



(注) 表側の不明は除く。

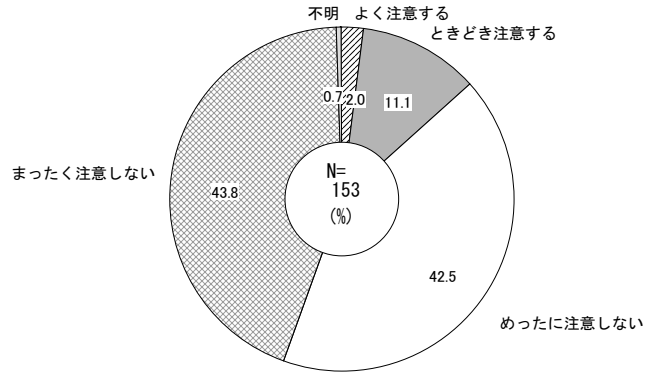
**問15 あなたは、よその子どものいたずらやいじめなどに対して、注意をしますか。**

よその子どもへの注意の有無については、「めったに注意しない」が42.5%、「まったく注意しない」が43.8%となっており、8割以上が注意をしないことが分かる。

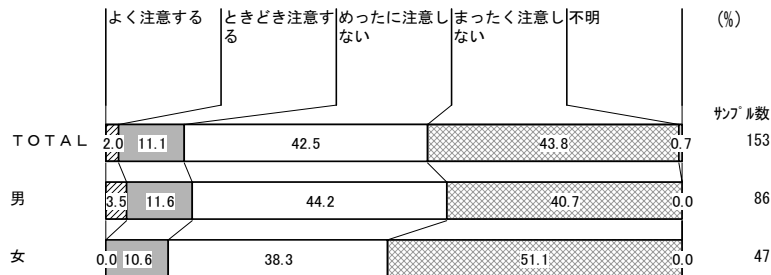
性別で見ると、男女共にあまり注意をしないことが分かる。

居住地区別に見ると、「大泉」地区ではあまり注意をしていない人が多く、「石神井」地区では注意をしている人がやや多くなっている。

よその子どもへの注意

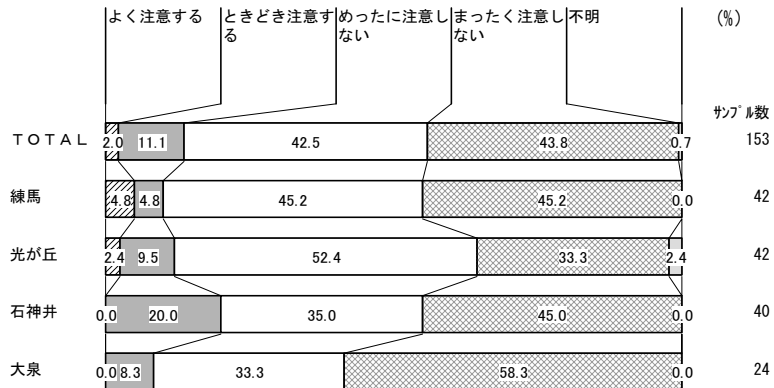


よその子どもへの注意 (性別)



(注) 表側の不明は除く。

よその子どもへの注意 (居住地区別)



(注) 表側の不明は除く。

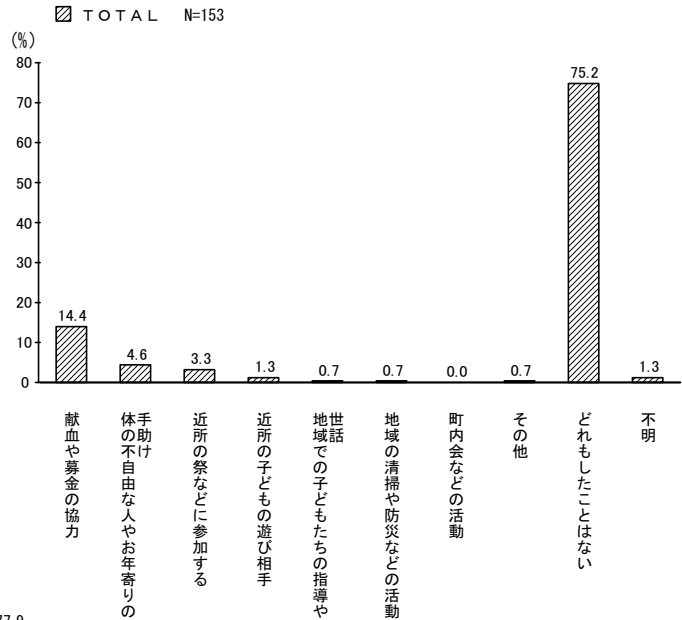
**問 1 6** あなたは、この1年間で次のような地域活動をしたことがありますか。(複数回答)

1年間で地域活動の経験について見ると、「どれもしたことはない」が75.2%で最も多く、経験があるものについては、「献血や募金の協力」が14.4%となっている。

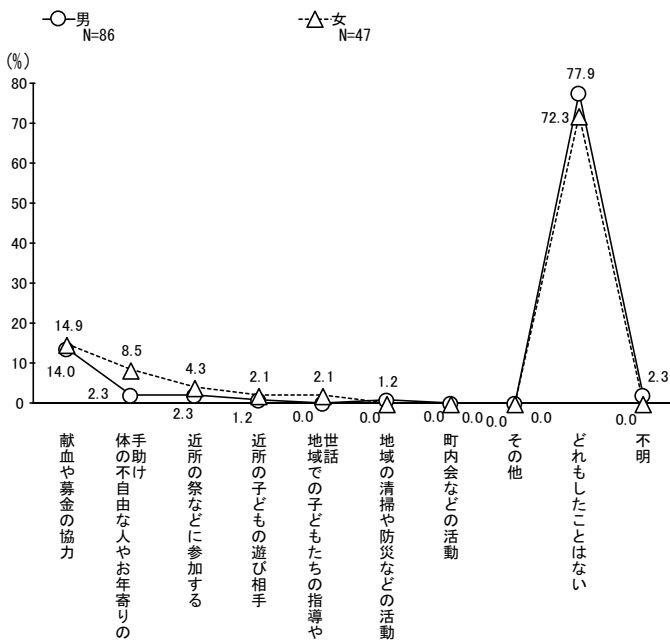
性別で見ると、男女共に「どれもしたことはない」が最も多く、女性については「身体の不自由な人やお年寄りの手助け」もやや多くなっている。

居住地区別に見ると、ほとんどの地区では「どれもしたことはない」が多くなっている。

地域活動の経験（1年間）



地域活動の経験（1年間）（性別）



地域活動の有無（1年間）（居住地区別）

	TOTAL	献血や募金の協力	お年寄りの手助けや身体の不自由な人への加える	近所の祭などに参加する	近所の子どもの遊び相手	地域での子どもたちの指導や世話	地域の清掃や防災などの活動	町内会などの活動	その他	どれもしたことはない	不明
TOTAL	153	14.4	4.6	3.3	1.3	0.7	0.7	0.0	0.7	75.2	1.3
練馬	42	16.7	4.8	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	71.4	0.0
光が丘	42	16.7	2.4	4.8	2.4	2.4	2.4	0.0	0.0	71.4	0.0
石神井	40	12.5	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	2.5
大泉	24	8.3	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	87.5	0.0

(注) 網掛けは30%以上。

問17 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。

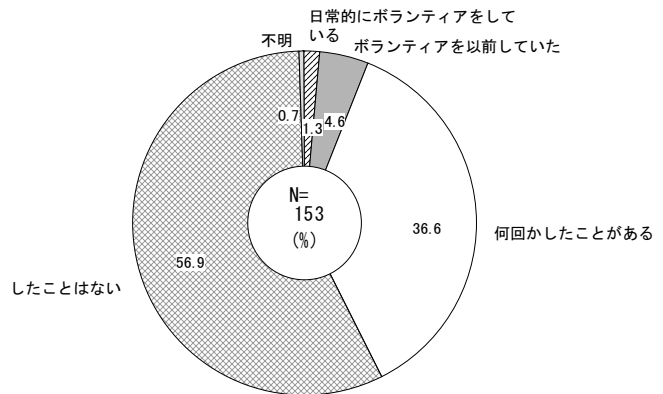
問18 あなたが参加したいと思うボランティア活動は何ですか。(複数回答)

ボランティア経験について聞いたところ、「したことはない」は56.9%、「何回かしたことがある」は36.6%となっている。

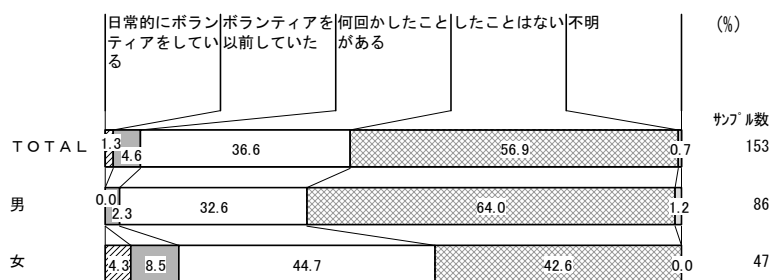
性別で見ると、男性は「したことはない」が6割を超えて多く、女性は「何回かしたことがある」が最も多くなっている。

居住地区別に見ると、いずれの地区でも「したことはない」が多くなっているが、「練馬」地区では「何回かしたことがある」がやや多くなっている。

ボランティア経験

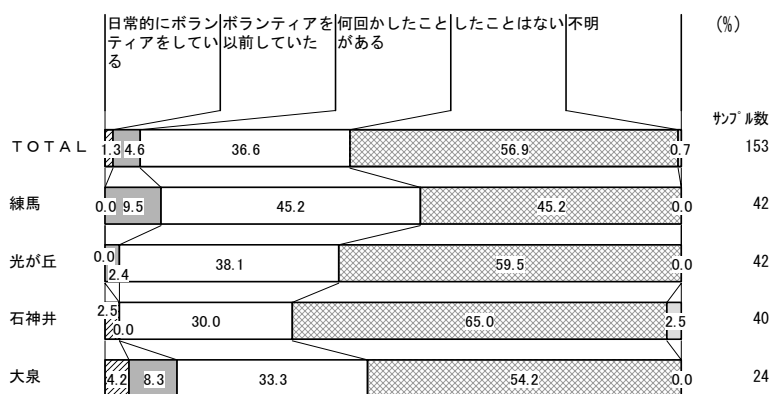


ボランティア経験 (性別)



(注) 表側の不明は除く。

ボランティア経験 (居住地区別)

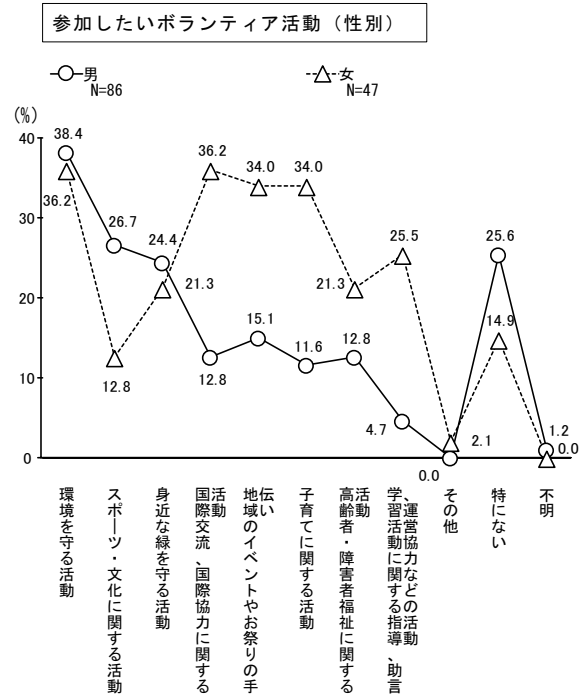
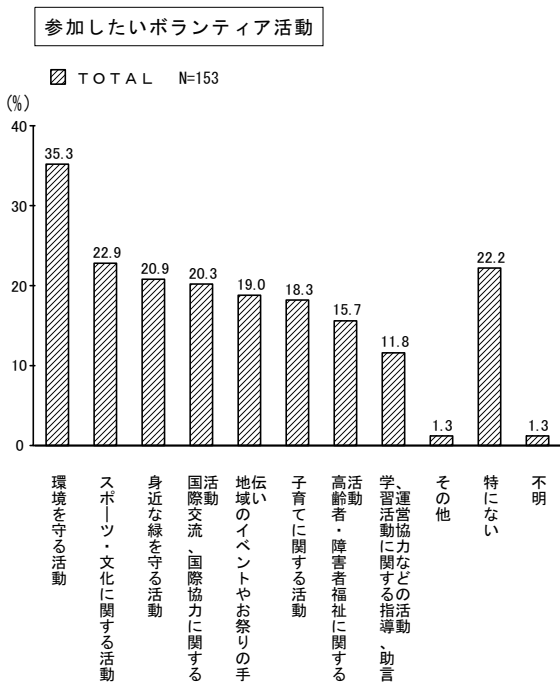


(注) 表側の不明は除く。

そこで参加したいボランティア活動について聞いたところ、「環境を守る活動」が35.3%で最も多く、続いて「スポーツ・文化に関する活動」が22.9%、「特にない」が22.2%となっている。

性別で見ると、男性は「環境を守る活動」や「スポーツ・文化に関する活動」、女性は「国際交流、国際協力に関する活動」「子育てに関する活動」が多くなっている。

居住地区別に見ると、いずれの地区でも「環境を守る活動」が多くなっている。



参加意向のあるボランティア活動（居住地区別）

	TOTAL	環境を守る活動	スポーツ・文化に関する活動	身近な緑を守る活動	国際交流、国際協力に関する活動	地域のイベントやお祭りの手伝い	子育てに関する活動	高齢者・障害者福祉に関する活動	学習活動に関する指導、助言	その他	特にない	不明
TOTAL	153	35.3	22.9	20.9	20.3	19.0	18.3	15.7	11.8	1.3	22.2	1.3
練馬	42	38.1	19.0	28.6	33.3	28.6	21.4	14.3	23.8	0.0	19.0	2.4
光が丘	42	28.6	19.0	19.0	16.7	21.4	14.3	9.5	4.8	2.4	28.6	0.0
石神井	40	32.5	22.5	17.5	12.5	10.0	12.5	25.0	12.5	0.0	27.5	2.5
大泉	24	41.7	33.3	16.7	20.8	12.5	25.0	8.3	4.2	4.2	12.5	0.0

(注) 網掛けは30%以上。

問19 あなたは、子どもの安全を確保するために、地域のボランティアパワーによって実施していく学校応援団の活動についてどうお考えになりますか。

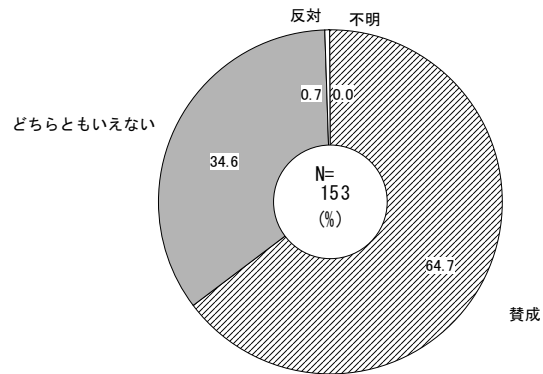
問19(1) 問19で「賛成」と答えた人へ、ボランティアとして活動することができますか。

子どもの安全を確保するために、地域のボランティアパワーによって実施していく学校応援団の活動について聞いたところ、「賛成」は64.7%、「どちらともいえない」は34.6%となっている。

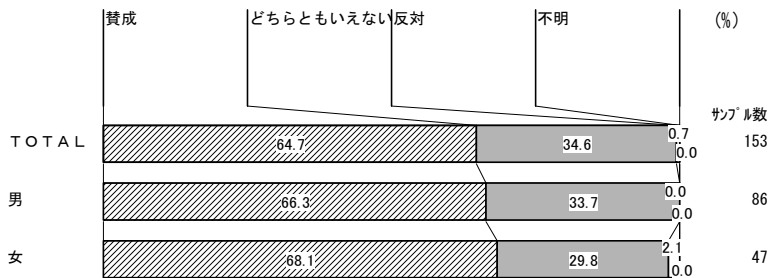
性別で見ると、男女共に「賛成」が6割を超えて多くなっている。

居住地区別に見ると、いずれの地区でも「賛成」が多くなっている。

学校応援団の活動への評価

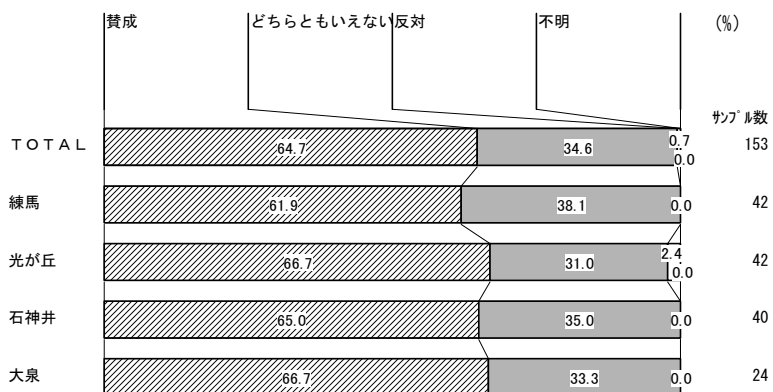


学校応援団の活動への評価 (性別)



(注) 表側の不明は除く。

学校応援団の活動への評価 (居住地区別)



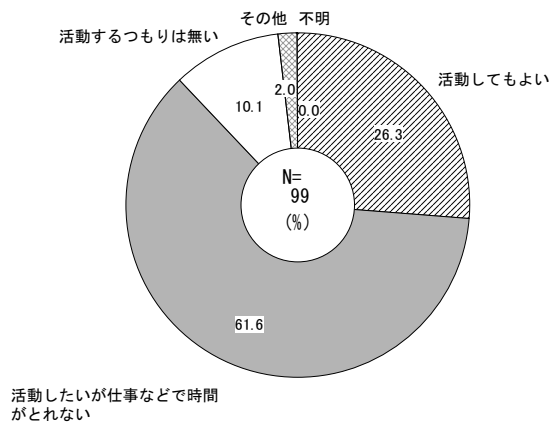
(注) 表側の不明は除く。

『学校応援団の活動について』について「賛成」と回答した人に、ボランティアとしての活動可能性について聞いたところ、「活動したいが、仕事などで時間がとれない」が53.5%で最も多く、続いて「活動してもよい」が31.3%となっている。

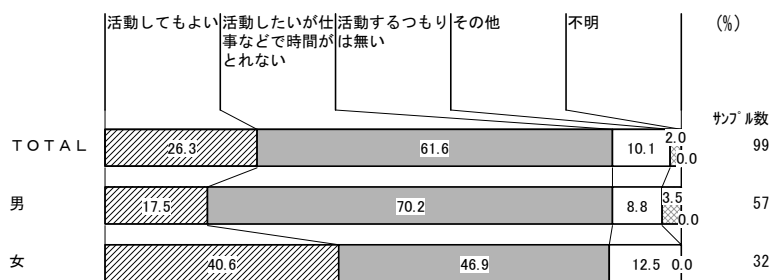
性別で見ると、男性は「活動したいが、仕事などで時間がとれない」が最も多く、女性は「活動してもよい」も多くなっている。

居住地区別に見ると、「練馬」地区などでは「活動したいが、仕事などで時間がとれない」が最も多く、「大泉」地区では「活動してもよい」が最も多くなっている。

ボランティアとしての活動可能性

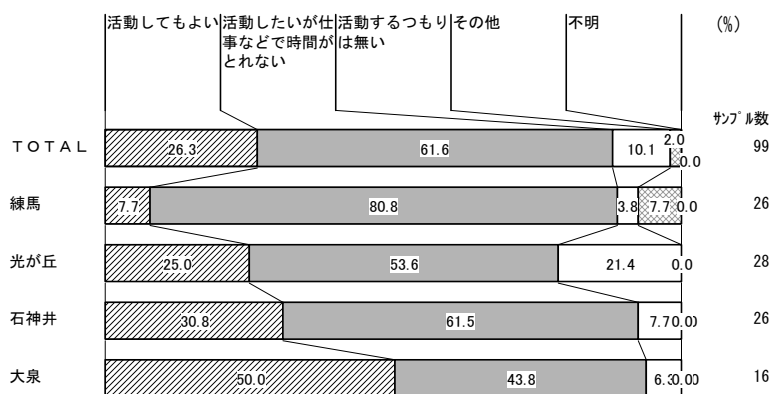


ボランティアとしての活動可能性 (性別)



(注) 表側の不明は除く。

ボランティアとしての活動可能性 (居住地区別)



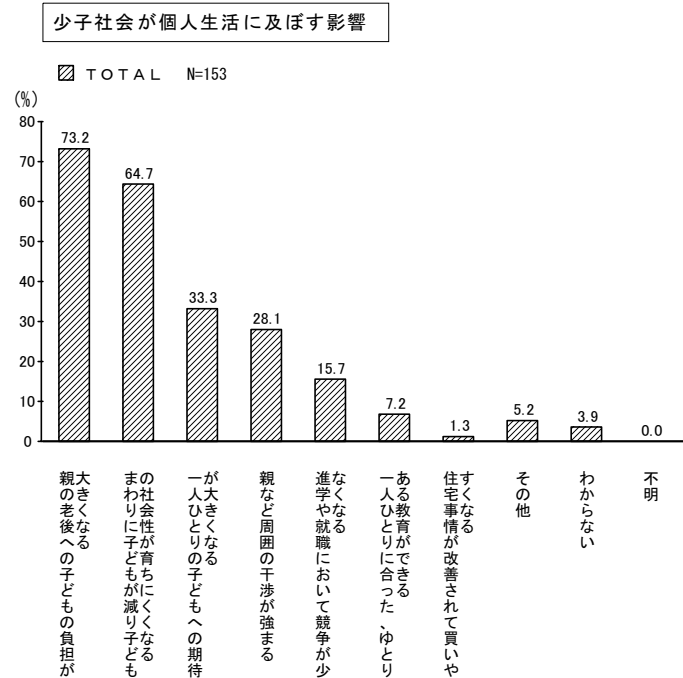
(注) 表側の不明は除く。

## (6) 少子社会に対する考え方について

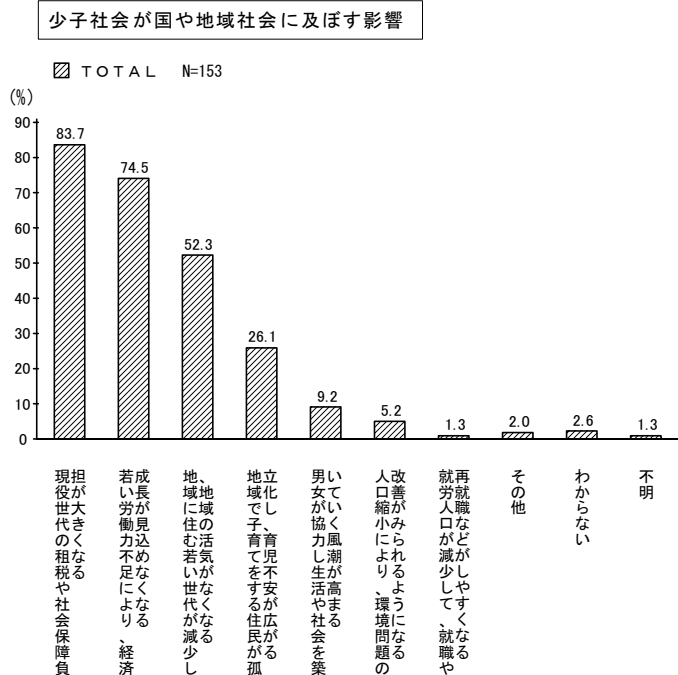
**問20** あなたは、少子社会（＝出生率が低下し、子どもの数が減ることにより、将来的には人口規模の縮小が考えられる社会）が、個人の生活にどのような影響を与えますか。（3つまで）

**問21** あなたは、少子社会が国や地域社会にはどのような影響を与えますか。（3つまで）

少子化の個人生活への影響については、「親の老後への子どもの負担が大きくなる」が73.2%で最も多く、続いて「まわりに子どもが減り子どもの社会性が育ちにくくなる」が64.7%となっている。



少子化の国、地域社会への影響については、「現役世代の租税や社会保障負担が大きくなる」が83.7%で最も多く、続いて「若い労働力不足により、経済成長が見込めなくなる」が74.5%となっている。





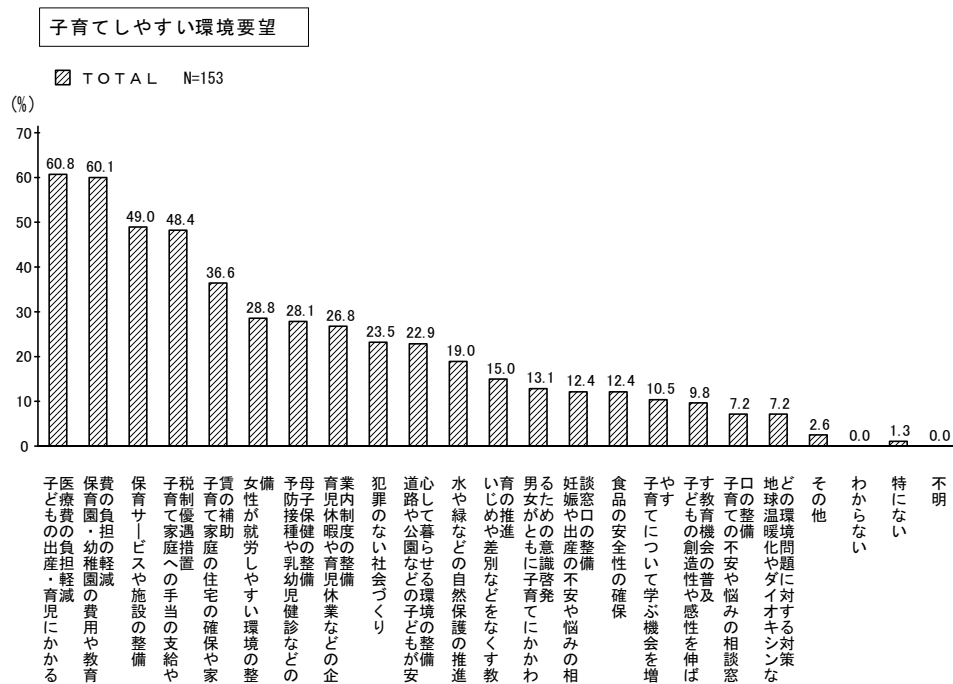
## (7) 行政サービス要望について

**問2** あなたは、子育てしやすい環境を整備するために、区はどうしていくのがよいと思いますか。(5つまで)

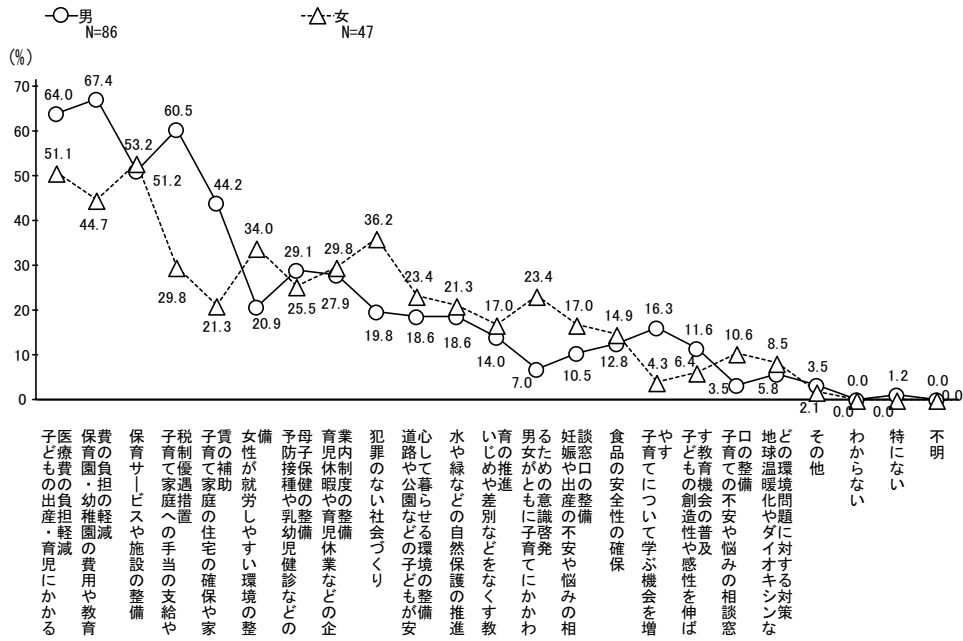
子育てしやすい環境を整備するために必要なことを聞いたところ、「子どもの出産・育児にかかる医療費の負担軽減」が60.8%で最も多く、続いて「保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減」が60.1%、「保育サービスや施設の整備」が49.0%となっている。

性別で見ると、全体的には男性の方が多くの項目を選択しているが、「女性が就労しやすい環境の整備」「犯罪のない社会づくり」「男女がともに子育てにかかわるための意識啓発」については、女性の方がより多くの項目を選択している。

居住地区別で見ると、いずれの地区でも「子どもの出産・育児にかかる医療費の負担軽減」「保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減」「保育サービスや施設の整備」が多くなっているが、特に「大泉」地区ではこれら上位項目についての要望が他の地区よりやや多くなっている。



子育てしやすい環境要望



必要な子育て環境整備 (居住地区別)

	TOTAL	医療費の負担軽減	子どもの出産・育児にかかる	保育園・幼稚園の費用や教育費の負担の軽減	保育サービスマスや施設の整備	税制優遇措置	子育て家庭への手当の支給や家賃の補助	子育て家庭の住宅の確保や家賃の補助	女性が就労しやすい環境の整備	予防接種や乳幼児健診などの母子保健の整備	業内制度の整備	育児休暇や育児休業などの企業内制度の整備	犯罪のない社会づくり	道路や公園などの子どもが安心して暮らせる環境の整備	水や緑などの自然保護の推進	育の推進	いじめや差別などをなくす教育の推進	男女がともに子育てにかかわるための意識啓発	妊娠や出産の不安や悩みの相談窓口の整備	食品の安全性の確保	子育てについて学ぶ機会を増やす	子どもの創造性や感性を伸ばす教育機会の普及	子育ての不安や悩みの相談窓口の整備	地球温暖化やダイオキシンなどの環境問題に対する対策	その他	わからない	特にない	不明
TOTAL	153	60.8	60.1	49.0	48.4	36.6	28.8	28.1	26.8	23.5	22.9	19.0	15.0	13.1	12.4	12.4	10.5	9.8	7.2	7.2	2.6	0.0	1.3	0.0				
練馬	42	54.8	61.9	52.4	47.6	47.6	16.7	19.0	28.6	21.4	14.3	26.2	14.3	14.3	14.3	16.7	7.1	9.5	4.8	9.5	2.4	0.0	0.0	0.0				
光が丘	42	52.4	59.5	54.8	40.5	35.7	38.1	31.0	26.2	21.4	19.0	11.9	16.7	14.3	11.9	9.5	9.5	7.1	4.8	2.4	0.0	0.0	2.4	0.0				
石神井	40	67.5	52.5	35.0	55.0	25.0	40.0	25.0	27.5	17.5	25.0	20.0	10.0	7.5	12.5	12.5	5.0	7.5	5.0	7.5	0.0	2.5	0.0	0.0				
大泉	24	70.8	62.5	58.3	45.8	37.5	12.5	41.7	25.0	37.5	33.3	16.7	12.5	8.3	4.2	4.2	8.3	8.3	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				

(注) 網掛けは40%以上のもの。